

SAKURA ネット

令和3年(2021年)2月26日



有終の美を飾ろう ～一年間をどのように締めくくるか～

2月もついに終わりを迎え、来週からはいよいよ3月。春の訪れを感じるとともに、学校では一年間のまとめをする時期となりました。

3年生は私立高校や高等専門学校の入試、そして県立高校の特別入試を終え、残すは県立高校の一般入試のみとなりました。約半数の生徒は、すでに進路が決定している状況ですが、最後の最後まで全員で入試に臨むという気持ちで、中学校生活最後の日々を充実させてほしいと願っています。

そして、入試が終われば卒業式がもう目の前。中学校の卒業式は、義務教育の修了という節目を祝う式であり、3年生の皆さんにとっても保護者の皆様にとっても、大変大きな意味をもっています。本年度も規模を縮小し、卒業生および保護者の皆様と、在校生代表生徒、教職員のみで執り行うこととなり、参加者は少なくなりますが、中学校生活三年間の総まとめとなる式典ですから、3年生の皆さんと共に、心に残る厳粛な式にしたいと思います。

2年生、1年生の多くの皆さんは卒業式に参加することができないかもしれませんが、前日には部活動ミーティングを一斉に行う時間を設ける予定です。先輩への想いはこの日にしっかりと伝えてほしいと思います。

そして、3年生卒業後の日々は、いよいよ進級に向け本格的に本年度の締めくくりをすべき時です。個人として、また学級・学年・生徒会・部活動等の集団として、この一年間をしっかりと振り返り、成果と課題を洗い出して来年度にはさらにステップアップできるようにしたいものです。

もしも十分にできていないことがあると思うなら、今がリベンジのチャンスです。まだ間に合います。目指す姿をイメージし、その姿に近付くことができるよう努力して、自分らしく一年間を締めくくりましょう。有終の美を飾ることができるよう。



Take action for a change!

真庭地区 第38回 中学生による「私の主張発表会」より

【優良賞】 「私が思うLGBT」 2年 山本 夕真

私の主張は、LGBTに関することです。

みなさんもジェンダーやLGBTのことは聞いたことがあると思います。くわしく知っている人も少なくはないんじゃないでしょうか。LGBTとは、性に関する4つの種類の言葉の頭文字をとったものです。まずLはレズビアンの頭文字です。そしてGはゲイの頭文字です。この2つは恋愛対象が同じ性別の人たちのことをいい、レズビアンは女性、ゲイは男性です。

Bはバイセクシャル。LとGは知っている人も多いと思いますが、Bはあまり聞かない言葉なんじゃないでしょうか。バイセクシャルは恋愛対象が同性、異性どちらもの人のことです。

最後にTはトランスジェンダー。トランスジェンダーとは体の性別と心の性別が違う人たちのことを言います。私たちの学校では、来年から新しい制服になり、女子もズボンを着用できるようになりますが、それもLGBTの考えが含まれているそうです。

LGBT、世の中にはそれで困っている人もいます。よく「ゲイ」などはからかうような言葉として使っている人がいますが、その言葉がどんな意味でどのように使われているのか考えてみて欲しいです。

私は性別が同じだろうが、その人だから好きになるという考え方なので、その人たちに批判的な考えはないですし、それで自分の道を進んでいるんだからむしろ尊敬します。ですが、世の中そのような人たちもいれば、それを嫌う人もいます。以前、ニュースか何かで議会の人が同性婚について語っていました。その人は「子孫を残せなくなる」と批判的な意見でした。考え方は人それぞれなのですが、その言い方だと女性が結婚するのは子孫を残すためだけだ、とともえられます。たしかに子孫を残せないと困るけれど、子孫を残すこと以外にも大切なことが結婚にはあると私は思います。きっとこういうことも含めてSDGsにジェンダー平等という目標があるのではないのでしょうか。

日本は今、同性での恋愛、トランスジェンダー、そのような人が今までよりたくさんいると思います。そのため、そのような人たちのための活動が行われていると思いますが、私が何より思っていることは、その人たちのためになることは、いつも通りの対応をすることではないかということです。同性が好きだろうが中身は異性だろうが、同じ人であることには変わりないです。レズだから、ゲイだからって急によそよそしくなるのはきっと一番相手を傷付けることになると思います。中には、中身は異性だからといって気持ち悪いという人だっています。何か気をつかってあげるより、いつも通りの接し方をする事が一番その人を傷付けないと思います。

よくレズやゲイだと分かったときに、「私や僕のことにはねらわないでね」という冗談を言う人がいますが、それは間違っていると思います。心が異性だからといって、なりふりかまわず恋愛対象として見ているわけではないと思うからです。そんなことよりもっと重い悩みをかかえている人だっていると思います。

今、世界でも差別の問題はたくさんあります。LGBTだって差別の対象になり得るものです。もしかすると親せきや他校の友達など身近な人がトランスジェンダーで困っているかもしれません。好きな人が同性というだけでからかわれていることだってあるかもしれません。別に特別なことをしなくても、いつものように接してあげるだけでもその子が助かるかもしれません。まだ日本ではLGBTの対策が不十分です。私たちもまだまだ知識不足です。その中で差別を受けている人もいます。ですが、その人を助けることは難しそうに見えて本当はけっこう簡単なことだと私は思っています。



真庭地区 第38回 中学生による「私の主張発表会」より

【優良賞】 「部活動を通して成長できること」 1年 栗栖 心愛



私は、中学生になって初めて部活動を経験している。卓球部に入り、三年生の先輩三人にやさしく指導してもらった。先輩たちが卒部し、二年生がいないので一年生だけになった。そして、とても不安だったが、私がキャプテンに指名された。これから、どうやってみんなをまとめたら良いのか、とても悩んだが、顧問の名和先生についていこうと決めた。

そして、新チームでの部活が本格的に始まった。対外試合をこなしていく中で、最初は負けても当然だと私自身も思っていた。なぜなら、私たちのチームは一年生しかいないし、中学生になって卓球を始めた人ばかりだったからだ。だが、

試合に勝って喜んでいる相手チームを見て、くやしい、自分たちも勝ちたいと思うようになった。果たして、卓球部のみんなはどう思っているのだろうか。中学校の部活なので、楽しく活動することが大事で、勝ち負けはそれほど関係ないと、思っているかもしれない。確かにみんなで仲良く卓球をするのは、楽しい。だが、スポーツなので、もちろん勝敗がついてくる。ならば、勝つ喜びも味わいたいと、私は思う。そのためには厳しい練習をみんなで乗り越えなければならないし、同じチームの仲間であっても、競い合わなければならない。仲間のミスに腹が立ったり、自分がみんなの足を引っ張ったりすることもあるかもしれない。そんな時は、みんなで話し合いを重ね、お互いの意見をぶつけ合うことも大切だ。そして、仲間と弱点を補い合いながら、共に上達していきたい。そうすればきっと団結力も強くなり、いいチームになれると私は思う。

また、部活動は技術面だけや部活動の時間だけの話ではないと思う。学校や社会のルールを守っていない人がいれば、そのチームは勝つこともできないし、みんなが楽しく活動することさえできないと思う。何よりも、中学生として自覚を持った行動が大前提である。それは、指導してくださる先生方の想いに応えることにもなる。放課後の練習のみならず、土日には対外試合などもある。私たちが必死に頑張っているからこそ、先生方も熱心に指導してくださる。もちろん、厳しい指導にくじけそうになったり、先生を嫌いになりそうになるときもある。名和先生の一言に涙を流した仲間もいる。でも、それは先生が、本気で私たちを試合で勝たそうと思ってくださっているからこそだと思う。

だから、私はたとえ中学校の部活動であっても、楽しいだけでなく、試合にも勝ちたいと思う。そういう気持ちで練習から取り組み、試合に臨んでいきたいと思う。先生から教わった礼儀や挨拶を大事にし、応援してくれる家族にも感謝したい。

中学校での部活動はあと一年と半年しかないが、あきらめない気持ちと相手を思いやる心を忘れずに、スポーツマンシップに則り、正々堂々と戦えるチームになりたい。

「みんなが強くなれるなら、私は嫌われてもかまわない」

と、おっしゃった名和先生に、試合に勝って恩返しをしたい。ただ勝負の行方は誰にもわからない。たとえ、勝つことができなくても、厳しい練習を乗り越えた私たちは、必ず成長できると信じている。

本年度の「私の主張発表会」は落合総合センターで開催され、真庭地区から16名の生徒が参加しました。残念ながら、ここでも観客の入場が制限され、保護者の方や一般の方に聴いていただくことができなかつたのですが、本校から参加した2名は、代表の名にふさわしく、落ち着いて堂々と自分の主張を発表しました。MITでの放送が予定されていますので、是非ご覧ください。